アシュラム ASHRAM

2017. 3月第580号

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編　集　アシュラム誌編集委員会

振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター

印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

瞑想

どこかの家に入ったら、まず、「この家に平和があるように」と言いなさい。

ルカ10：5

主幹牧師　榎本　恵

台湾語の「平安（ペンアーン）は、挨拶の言葉だ。台湾アシュラムへ行くと、あちこちでこの言葉が聞こえてくる。聞くところによると、この「平安（ペンアーン）」という挨拶は、昔キリスト教の宣教師によってもたらされたのだという。まさに、「どこかの家に入ったら、まずは、『この家に平和があるように』と言いなさい」（ルカ10：5）という主の宣教命令が、かの地でなされ、それが今や一般の人たちまでが使うようになったことに驚く。

この「平和があるように」という言葉は、ご存知のようにヘブライ語の「シャローム」であり、まさにユダヤ民族にとっては、挨拶の言葉である。最近では、日本の教会でも、「平和のあいさつ」というものが礼拝の中に取り入れられるようになった。しかし、どうもかしこまった礼拝式の中で、お互いに、「平和があるように」とか「主の平和」とあいさつしあっても、なんだかぎこちないものがある。いっそのこと、「平安（ペンアーン）」とか「シャローム」と笑顔で挨拶を交わした方がいいのでは、と密かに思っている。

どうも、私たち日本人は、このあいさつというものが苦手である。「いや、それはお前だけだよ」という声も聞こえてこないでもないが、電車の隣席に座る時も、エレベーターに乗り合わせても、朝、道ですれ違っても、なんだか押し黙ったままなのは、私だけではないだろう。特に海外に行くと、彼らの自然にあいさつする姿に恥じ入ることが多い。もちろん、四方を海に囲まれ、200年前までは、自分たちの住む「藩」を国と考えていた日本人が、滅多に出会うことのない他者にどう声をかけていいものか、わからないのも無理のないことだろう。ましてや、かつてキリスト教の大弾圧時代を経験したトラウマが、今も日本人の潜在意識に大きく影響を及ぼし、そう簡単には、「平和があるように」などと耶蘇のあいさつなどできるものか、と考えてもおかしくはない。けれども、今回の「どこかの家に入ったら、まず、「この家に平和があるように」と言いなさい。」とのみ言葉は、もう一つの「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコ16：15）という言葉とともに、主の宣教命令として私たちに迫ってくるのだ。そういう意味で、「この家に平和がありますように」というあいさつの言葉はとても重要なものなのである。

しかし、実は私たち日本のクリスチャンにとって、どのようなあいさつをするかということ以上に、まず「家に入る」というところが一番の問題なのではないだろうか。私には苦い経験がある。それはまだ、沖縄の精神科病院のチャプレンをしていた頃のことである。私は、まさにこの心の病の中にある人たちの友にならなければと、病院内を歩き回り、彼等を捕まえては話を聞いていた。ところがある一人の青年にこんな言葉を投げかけられたのだ。「先生は今、親切そうに俺たちの話を聞いているけど、俺たちが、一番苦しい時、アパートの一室に引きこもっていたときに、訪ねてきたのは、エホバの証人とモルモンの宣教師だけだったよ」私はこの時の彼の蔑むように見つめる冷めた目を今も忘れることができない。私たちは、一生懸命主の業を成そうとする。どうすれば人々に福音を宣べ伝えることができるのか、どんな言葉がふさわしいのか、けれども、いつまでたってもその家に入っていないのだ。「どこかの家に入ったら、まず、「この家に平和があるように」と言いなさい。」（ルカ10：5）あれ以来、今も私はこの沖縄の病院に通い続けている。

友よ、最後にそんな彼等のつくった詩集から一編を紹介し今月の瞑想を終わろう。

「あいさつをしても／通り過ぎる人／知らんふりをしている。「偏見があるのかな。」あいさつをしたら／あいさつが返ってきた。僕は／その人の住んでいる棟や、／名前まで覚えていく。そのうち話しかけてくれた。僕には／そんなことが／たまらなく、嬉しいのだ。」（詩集「風が光る」より）

常任運営委員会に感謝

小林茂男・佳子

今年の第42回年頭アシュラムは、暖かい日のもとにお元気な後宮先生御夫妻も参加され、主の御臨在がひしひしと感じられます素晴らしい会でした。

私たちは15年間、年頭アシュラムにと願いやっと2006年初めて参加出来ました。しかし田中主幹牧師の突然の御召天で寂しく期待は崩れました。しかし閉会後「今後についての会」に残れる人はとの呼びかけがあり、祈りの仲間にと残りました。そして次回は、2月に!!との事で初めてセンターに伺いました。

この時出席の方々は榎本保郎先生より指名され信仰深く信頼されていた常任運営委員である事が解りました。私達はただ祈り手として毎月例会に出席させて頂いていました。

2007年の年頭の準備を始める頃、和子夫人の長年のお祈りと委員の方々の祈り、そして全国のアシュラムの友の祈りを主は叶えて下さり、沖縄で御活躍の榎本恵牧師が来て下さると聞きました日の感動と喜びは忘れることはありません。

2007年の年頭アシュラムは、主の御臨在を強く感じ参加者の喜びと感謝が満ち溢れ

・イエスは主なり
・聴従!!御言葉には力がある
・祈りはきかれる　等

榎本恵師の若いお元気な声には新しい息吹と霊に燃え主にお仕えするお心が、私達にもしっかり刻まれました。

榎本恵師は沖縄に帰られましたが常任運営委員一同はセンターの主幹牧師として御就任下さる事を祈りました。そして承諾が伝えられ、又感動しました。今榎本恵師は保郎牧師の原点を見つめ、新修道場計画を祈りつつ練っておられます。主の御旨は必ず実現します。

今回も「常任運営委員に!!」の榎本恵師の呼びかけに17人もの方が立ち上がってくださいました。嬉しくて涙があふれてきました。御用を通して生きてお働き下さいます主に出会われる事でしょう。長い間色々とお導き下さいました事を深く感謝申し上げつつお働きの上に主の御祝福をお祈り申し上げます。

（近畿福音ルーテル教団　松阪教会）

毎月の常任運営委員会には三重県から運転。喜びと感謝を携えて（小林ご夫妻と和子母・年頭アシュラム）

あとがき

第42回年頭アシュラムも祝福のうちに無事終えることができた。前日までの大雪が嘘のように晴れ渡り、3日間み言葉に聴き祈る生活を送ることができた。今年のアシュラムは、初めての参加者も多く、特にインターネットからの申込者の数名あったことに、驚いている。また、修道院で生活している若者も含め、若い世代が参加してくれたことは、大変心強い。私も今年で、アシュラムセンター主幹牧師となり、10年になる。主は大いなる計画をもって、これからのセンターの働きを導いてくださるに違いない。新しい常任運営委員も、17名立ち上がってくださった。どうか、主の御栄光が現されますように。（恵）

アシュラムが若い方達にも継がれていきますように。

たびんちゅ牧師の今日も求道中
FEBCラジオ放送にて
恵師 担当番組、始まっています!
2017.1月～3月（毎週水曜日）
夜10:14～
AMラジオ
1566 KHz
インターネット
www.febcjp.com

チャイムコンソート（池田チャイムの会）
山下タカ子
降矢　トヨ
西田　章子
佐藤千萬子
仲宗根留美子
朽木　順子
高橋　昭代
湯野　静子
原田　博充
安藤　豊子
尾崎　幹二
尾崎　恵
新井みつ子
新井よう子
金原　理
金原　慶子
竹本　進
嵯峨　文子
吉田　高明
大原　勲
喜多川啓子
センター合同クリスマス聖書教室
加藤　和子
藪　千鶴
唄野　隆
唄野　絢子
村上　勇
井上　正子
佐々木春代
豊永　康子
西澤　基子
村瀬　俊夫
竹倉みゆき
引原　勝美
中原　牧子
広野祈りの家
村田　豊子
山田　秀穂
山田　恵子
猪瀬　和子
小林　三夫
森下　辰衛
アシュラムセンター
クリスマス夕礼拝
河内　直子
白神　紀子
南山　伸夫
猶原　順子
伊達　洗次
関澤　淑子
守弘　士朗
酒井　博子
藪内キヨエ
平山　秀雄
古川　良男
吉井　正子
本名　愛子
西川　政一
松川　律子
森　よし子
米田　康子
米田　歌子
木下　文隆
木下　光江
単立埼玉キリスト教会（平田　孝）
吉田すみゑ
石原　誠
石原　繁子
鳥谷越明子
横引　公一

ご献金者
敬称略
12月分
金山　良雄
中谷　哲造
有野　和子
橋本るつ子
山田　和子
阪神ミニアシュラム
隅田　寿子
小林　清子
沢田　育世
岩波　久一
桑原　亜子
川村　邦彦
松浦　功
本田　英一
小林　信子
斉藤宇多子
後藤　恒子
津田長太郎
串良キリスト教会
川村　哲嗣
野崎　康明
片岡フジ子
吉田喜代美
加藤堅太郎
イエスキリスト教団高松田村町教会
雀部喜久子
石黒　實
西本美恵子
明石シオン
多鹿千恵子
広島福島町教会
金子　初子
榎本　和子
榎本てる子
伊達　平和
広澤　節子
山岡　義明
足立タヅ子
常任運営委員会
加々美　要
李　菲玲
小林　茂男
小林　佳子
照屋　新市
吉川　禮子
小林　美代
海老沢ひろ子
八木多恵子
熊本アシュラム
内海　初子
西山　均
西山　由香
日本キリスト教団三島真光教会
高志　洋美
豊田　美栄
家形　日出
福岡聖書教室
千里山キリスト教会
吉田恵美子
植松喜美子
越智　千歳
上柿　京子
山田喜久子
香川　孝子
正岡リツコ
松田　公子
池田　勝彦
榎本　恵
榎本　康子
榎本　光太

「主のみ手に支えられて」

使徒13：36前半（口語訳）

榊原 喜三郎

将来の牧師像

神学生の３年生の時、私にはまだ具体的な牧師像のイメージがないことに気づかされ、一人静まって祈る時、私がこんな牧師になりたい・・と思うよりも「神様は私にどんな牧師になって欲しいと願っておられるのか、教えて下さい」と祈るようになりました。そしてヨハネによる福音書を読んでいた時、10：41～42節のみ言葉が心にとどまりました。そこでヨハネの所を自分の名前に置き換えて読んでみました。「榊原は何のしるしも行わなかったが、榊原がイエス様について言ったことは、皆ほんとうだった。」そこで多くの人が私ではなくイエス様を信じる・・その様な牧師にならせていただこうと、決心することが出来ました。

卒業後の働き場について

神学生の４年生の時、卒業後の働き場について祈っていく中で、**神様が「私に従って来なさい」と言われたのは、働き場の用意が出来たから声を掛けて下さったのだ、という信仰が与えられ、**楽しみにしながら待っていました。すると８月に入ったある日、日本基督教団香里教会の杉田先生から「枚方伝道所に来ていただけませんか」との招きを受けました。この時、私達は家庭を開放して大人の集会も毎月持っており、数名の方がイエス様を信じて洗礼を受けていました。そのため、ここで開拓して伝道を続けるべきか迷っていた時でしたので、しばらく祈らせて欲しいと待っていただきました。そして家内と二人で、一生懸命に祈りました。しかし半年たっても何の答えもなかったので、これ以上待たせてもいけないからと、お断りの電話を入れました。そして**次の日、友人と別れての帰り道、突然「ガリラヤへ行け」という言葉が飛び込んで来ました。**「えっガリラヤ？」・・弟子達にとってガリラヤとは、イエス様との最初に出会った地であったように、私にとっては神学校に来る前に育った、日本基督教団に帰ることだ・・と示され、「やはり、行かせていただきます」と電話をし、喜んで頂きました。「**ガリラヤへ行け」この言葉は、私の歩みを決定づけた、忘れることの出来ない言葉の１つです。こうして招かれた伝道所こそ、神様が私のために初めから用意して下さった所であり、イエス様がすでに待っていて下さる所だという信仰が与えられ、卒業後、家族揃って赴任しました。**

ところが赴任した日に大家さんから「今年の７月までに、今まで集会所として使っていた所を空けてほしい」と言われ、驚きましたが、**神様が「もっと良い場所が見つかったから、ここを出なさい、と言われたのだ」という信仰が与えられ、早速、皆で新しい場所探しが始まりました。**そして枚方市駅から10分くらいの所で土地60坪二階建ての家を、3500万円で売りにでていた物件を、まだ20人にも満たない小さな群れでしたが買うことにしました。そして「買おう」と決断したその週に、母教会の会員の方が多額の融資をして下さり、また多くの人の祈りと献金によって、９月には銀行からお借りすることなく購入することが出来ました。

早速、家の内部を会堂らしく改装し、礼拝をもつことが出来、一同、喜びに満たされました。この時、「伝道所から教会へ」と願い、**Ⅰコリント16：22「マラナ・タ主よ、来たり給え」というみ言葉から「マラナ・タ」教会と命名しました。**そして１月末、会堂の献堂式と枚方伝道所から第２種「マラナ・タ教会」の設立式と、私の牧師就任式と、１度に３つのお祝いの時をもつことが出来ました。こうして30年間できなかったことが10ケ月で出来てしまったのです。まさにイエス様は約束通り私たちに先立って待っていて下さり、ご自身の業を見せて下さいました。

奨励の時にお話された榊原師　主に導かれた歩みを振り返りつつ…

正教師試験の時

牧師となるための正教師試験の年に、３人目の子の出産が重なり、家内は８月には郷里の豊橋に帰ってしまい、小学６年になる長男と、３年の長女と３人の生活が始まりました。そのため掃除から洗濯、子供たちの世話・・と、試験の準備どころではありませんでした。そんな中で、ある時、神様の前に、せっぱつまった状況を、涙ながらに祈っていた時、本当に優しく、温かく、体全体が包まれ、心の中から喜びが溢れて来ました。そして「神様が守って下さる」・・という信仰が与えられ、平安に包まれました。

９月末には家内も無事に次男の出産を終え、赤ちゃんと一緒に帰ってくることが出来ました。そして10月、試験当日、１科目目の試験が始まって10分位した時、トラブルが起こり、試験は中止になり、全科目を１週間以内にレポートで提出することになりました。その結果、全員、無事に正教師試験に合格することが出来、クリスマス前にもたれた教区総会で、按手礼を受けることが出来ました。そして**按手礼を受けた最初のクリスマス礼拝の中で、初めての聖餐式と、小６の長男を含めて、４人の人の洗礼式を持つことが出来、この年のクリスマスは私にとっても、忘れることの出来ないクリスマスとなりました。**

（単立　ジョイフル　牧師　大阪　聖書教室の友）

西本美恵子
遠藤富美子
杉山ミユキ
杉山　英理
儀間　良子
関澤　淑子
奥川　弘子
本名　愛子
安藤眞知子
米田　康子
米田　歌子
中村　和子
菅原　博
渡部　元
後藤　梅子
18口
￥147,500

ヨセフ基金
ちいろば
アッちゃん・シュラム君
本名　愛子
高山美津江
吉田すみゑ
5口
¥11,200

礼拝堂改築
鍬田　速明
1口
￥5,000

クリスマス献金
本田　英一
榎本　和子
吉川　禮子
内海　初子
榎本　恵
榎本　康子
榎本　光太
工藤　隆志
狩野　深江
日本アライアンス教団吉浦キリスト教会
沢田　育世
山陰アシュラム（美保キリスト教会内）
野口　洋子
星野　隆三
星野　広子
久遠基督教会
奥川　弘子
本名　愛子
吉田すみゑ
久保三千代
辻田志津子
東　千代
名嘉ゆかり
齋藤　星耕
稲荷　明古
脇　萬里子
22口
￥201,000

新修道場計画
伊達　洗次
籔内キヨエ
本名　愛子
石川　友子
4口
￥35,000

合　計
233口
¥1,533,880
感謝いたします

柳沢ユキエ
竹下　高子
沖田　朝子
中島　信光
祇園加代子
井上　明
井上讃美子
日本基督教団和歌山新生伝道所（松田光代）
小泉澄志江
石川　友子
薬師寺美保
山本　徳文
山本多賀世
桜美林リトリートアシュラム
吉田　健三
脇　萬里子
鹿屋キリスト教会
榎本　和子
式　久恵
柿崎江美子
相川　良子
菅原　博
静岡聖書教室
安仲　萌子
池谷　好江
浜本百合子
榎戸　基人
榎戸　真弓
江田島キリスト教会（宮崎　章）
沼田　進
中村　和子
谷本めぐみ
植松　聰子
石田　哲夫
菅原　博
長村冨美子
加戸　裕子
東京聖書教室
渡部　元
小倉　博子
多田眞愛子
荒木　千博
伊達　知恵
沢田　育世
後宮　俊夫
後宮　松代
時任　綾子
金田佐久子
山田　称子
堺大浜キリスト教会
杉山　英一
新　清緑
中山　正
中山ゆき子
大隈　潤子
冨山　桂子
垣花　敏一
實　幸宏
小倉徳力教会
沖田　和恵
183口
￥1,134,180

榎本保郎牧師召天40周年記念事業のために
有野　和子
岩波　久一
石堂　博江
岡村富久子
後宮　周子

アシュラム修道場生活記
その２「世話にならない」

伊達　平和

「世話にならない」。これがアシュラム修道場に来た時の初心であった。それは、いわゆる「人様に迷惑をかけてはいけない」という倫理観によるものではなく、どちらかといえば「ただより恐ろしいものはない」という恐怖心であった。数日過ごせばわかるが、どうやらアシュラムセンターの人々は、親切な人たちであるらしい。しかし、その親切に甘えてばかりいると、いつか恩を盾に仕事を頼まれるかもしれない。自分の仕事もあるのにそうなると大変だ。そう考えた私は、できるだけ世話になるまいと心に誓ったのである。

年頭アシュラムにてちいろば合唱団の皆様に歌唱指導を優しく熱く…♪

私が修道場の引っ越しに当たって最初に取り掛かったのは、修道場の掃除である。１年以上空き家だったことから、とにかくホコリがひどい。電球はあちこち切れ、虫の死骸が散乱し、玄関の戸を開けると、黒い何かがカサカサカサ…と逃げていく、そんな家であった。私は意を決して黙々とホコリを払い、照明を取り付け、古いカーペットはがし、床を拭いた。するとどうだろう、意外にも快適な家になってくるではないか。嬉々として掃除を続け、まるでこの家の主になったかのように「ちゃんと働いていますよ！」と、大家にアピールをしていた。「世話にならない」という目的は簡単に達成できるように思われた。

ところが、である。引っ越して３日目、突然40度近い高熱を出して倒れてしまった。近江八幡の知らない土地。コンビニは徒歩５分以上。ドラッグストアに至っては徒歩15分。病院はどこにあるか検討もつかない。すぐに車で病院に運んでくれるメグミセンセ、ご飯を作ってくれるルツコセンセ、必要なものを持ってきてくれるヤスコサン。診断はインフルエンザＢ型。その後も熱がひかず、細菌感染もしていることも判明し、結局７日ほど伏せてしまった。この間、世話をしてくれたのは誰なのか言うまでもないだろう。かくして私の初心は３日で砕け散ったのであった。

引越し早々散々な目にあったのは違いないのだが、神はインフルエンザを通して、ルツ子先生、恵先生と康子さん、和子先生と交わるきっかけを与えてくださったのかもしれない。「世話をされ、世話をする」。かつては当たり前だった相互扶助も、個人化が進んでいく現代社会にあって、得難いものになっている。地域社会、そして家族や親族が担っていた相互扶助の機能は、これから何によって代替されるのだろう。知らない人と人が出会い、「世話をされ、世話をする」関係はいかにして作っていけるのだろう。そして、アシュラム修道場は、この問いにどのように応えていけるのだろう―。まったく、とんでもないところに神様は修道場生活のスタートラインを設定するものである。そして、今思えば、「世話にならない」と心をかたくなにしていたのも、この問いにたどり着くための神の計画だったのかもしれない。今ではそんな気がしている。

プロフィール

伊達　平和（だて へいわ）

1985年、福岡県福岡市のクリスチャンホームに生まれる。
大学・大学院の12年間を京都で過ごし、現在滋賀県の某大学教員。
2016年４月よりアシュラムセンター修道場に住み、早天祈祷会に出席し“るっちゃんルンルン福音食堂”で朝食、時には弁当まで頂き、出勤する生活を送っている。

アシュラムセンター修道場Facebookページができました！
https://www.facebook.com/ashram.monastery/
生活記「番外編」や修道場の風景をお楽しみください。

熊本地震のための暖かいお支えに感謝して（4）

熊本アシュラム　竹内一臣

渡部社長は財団法人を設立するため、多くの企業をまわって寄付集めに奔走され、酒井県議はなかなか土地を売ってくれない地権者を一軒、一軒回って説得に当たられたのです。魂を入れるように頼まれた緒方先生は勤労青少年の福祉問題について、委員会を立ち上げ、6名の委員と約一年間にわたっての研究を開始されたのです。

愛がなければ人は育たない、その委員会の目的はボランテイア精神の学びの時でありました。

「ボランティアつまり奉仕活動は、その根をどこにおいているかといえば一人ひとりが生かされているという感謝と喜びの気持ちにおろしています。自分の家のこと、自分のためだけにいくら努力しても、それは奉仕とはいえません。自分を超えて他者のために生きるのが奉仕ですから。ボランティア活動は強制されて行うものではありません。

次に報酬を期待しない。これは金銭的な問題ですがそれ以上に精神的には喜びがあります。

この喜びは、奉仕したことのある人だけが知る喜びと生き甲斐です。

すべての人は善意を持っていると思います。悪意だけの人なんていません。その心に向かって、いかに呼びかけ、一つの活動を生み出すかが大切なことだと思います。人が善意を持って他者のために時間と能力を捧げていく、まさにこのような奉仕活動こそが勤労センター憩いの家の設立の精神にふさわしいのではないだろうか、そしてこのボランティアの精神が、この地方の若い人たちの心の中に植え付けられていくならばまたこうした働きが、この地方のいたるところに花を咲かせていくならば、本当に住みよい豊田市になるに違いない。

こう確信した時、緒方先生は、大きな希望の光を発見したような気持だった。

麻の実会の後援会で先生の思いを訴えて2年後の1966年11月、豊田市一本木町の小高い丘の上に敷地面積8220平方メートル、建築面積531平方メートル、鉄筋2階建ての本館、隣に体育館を併設した勤労センター憩いの家が完成したのです。働く青少年をすこやかに育てようと民間企業が資金を出し合っての施設造りは、全国でも類をみないことでありました。しかし、開設当初幾多の困難を乗り越えていかなければなりませんでした。特に運営のための資金繰りは大変でした。

素晴らしい開所式が終わり、酒井県議から会計の木場幸代さんに、運営費といって手渡されたのが10万円で、それは、一カ月の経費をも満たすことの出来ない金額であった。渡辺理事長さんは、2万円以上のものがいる場合は、会社に言ってきなさい。」と言われました。

「繕い物するのにミシンが、冷蔵庫の大きなものが欲しいと次つぎに出す要望をそれとなく聞き、ほとんどかなえてくださいましたが、ある時、会社の係りの方から「会社には予算があり、その中から憩いの家の要望に応えるために苦しいやりくりをしているのです。憩いの家で、社長に勝手なおねだりはしないでください。」とお叱りをいただいたこともありました。法人利用券を買っていただき、憩いの家の運営費にするため、会社まわりをし、施設の内容を訴え、協力をお願いに行きました。目が不自由な緒方先生は、あまり協力的でない相手の話し方などから、その方の顔が想像できるとおっしゃっていました。本当に辛く、涙がでました。

企業に依頼に行って出るお茶からも、相手の心が感じられました。出がらしのお茶が出るところもあれば、御苦労様とお茶をくださるところもありました。このお金は自分たちがもらうお金ではない。青少年のために使うお金だと理解を求めましたが、それでも辛かったです。

あらためて、理事長さんと約束してから建設までの2年半の月日を振り返り、建設資金作りに奔走された、理事長さんはじめ、その周囲の方々のご苦労が身にしみてわかりました。

しかし、会館の運営は順調でこのようなエピソードが残っています。

3月のアシュラムなど

9(木)	常任運営委員会 （アシュラムセンター）	0748－33－4030 アシュラムセンター
13(月)	福岡聖書教室 （博多クリオコートホテル PM1:30） 奉仕者　榎本恵師	092－607－8251 樋口栄子姉
15(水)	カフェちいろば聖書入門講座 （京都・伏見区深草 PM1:30） 奉仕者　榎本恵師	075－643－2476 みんなのカフェちいろば
17(金)	センター聖書教室 （アシュラムセンター AM11:00） 奉仕者　榎本恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
18(土)	広野祈りの家 （兵庫三木市志染 猪瀬和子姉宅 PM1:00） 奉仕者　榎本恵師	0794－85－1147 猪瀬和子姉
19(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝・愛餐会 （PM5:00） 奉仕者　榎本恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
21(火)	大阪聖書教室 （大阪クリスチャンセンター AM10:30） 奉仕者　榎本恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
27(月)	静岡聖書教室 （旧・英和女学院宣教師館 PM2:00） 奉仕者　榎本恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
28(火)	東京聖書教室 （御茶ノ水クリスチャンセンター4F AM10:30） 奉仕者　榎本恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
28(火)	桜美林リトリートアシュラム （桜美林大学荊冠 PM2:30） 奉仕者　榎本恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター

4月のアシュラム予定
（榎本保郎牧師召天40周年記念の年です）

ロサンゼルスアシュラム
榎本保郎牧師を偲ぶ会、コンサート
日時　4月1～4日（土～火）
1日：一日アシュラム、2日：偲ぶ会、3～4日：一泊アシュラム

第24回 三重アシュラム
日時　4月14日～15日（金～土）
場所　久居グリーンホテル　奉仕者　榎本恵師　会費　13000円

第20回 阪神一日アシュラム
日時　4月29日（土）　詳細はご案内をご覧ください。

2017年5月以降のアシュラム予定

5月3日～5日	熊本復興アシュラム
5月3日～5日	秋田盛岡アシュラム
5月3日～5日	関東青年アシュラム
5月19日～20日	第4回 金沢アシュラム
5月27日	第17回 愛知一日アシュラム
6月23日（慰霊の日前後）	沖縄巡礼の旅　聖書教室
7月	天上の友を憶える日礼拝
9月8日～9日	新潟アシュラム
9月17日～18日	九州アシュラム
9月25日～27日	第14回 国際正義・平和アシュラム in 神戸
10月2日～3日	山陰アシュラム
10月11日～13日	第5回 日光オリーブの里アシュラム
10月27日～28日	第18回 愛知一泊アシュラム
11月21日～23日	第42回 京浜アシュラム
11月23日～25日	第41回 阪神アシュラム

みことば

岡山聖書集会（無教会）
香西　信

「ことばの意味を開く（12）」

神の知恵、神の力のもうひとつの大切なものは復活です。

復活に関して大切なことは、復活信仰というものは、私たちの信仰の中心を支えるものであるということです。

復活がなければ、私たちの信仰はその根拠を失うことになります。この世的な生活がすべてということになり、そこにおいて、死（罪、律法）による支配が私たちの生活全体を覆うものとなってしまいます。まさに「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか。」というように刹那的、享楽的な快楽だけを追い求めて生きるようになります。

また私たちが自己犠牲を通じて実践するべく与えられた愛の道も、復活の希望がなければ、何のために命をかけるかという目的がなくなることになります。

復活に関して注意すべき大切なことは、復活というものは、生身の肉体を伴ったものであるということです。イエスさまが生身の人間として復活されたことは、歴史的事実です。そのイエスさまが復活の初穂となり、イエスさまが再臨される時、終末の時には私たちすべてのイエスさまを信じる者が復活します。これが私たちに与えられる大きな約束、希望となっています。そのときには、霊のかたちに相応しい身体が与えられるとパウロは言っています。

復活こそが私たちに約束される最大の勝利であり、復活によって死（罪、律法）は克服されます。聖書の真理はすべてこの復活によって根拠を与えられていると言っても過言ではないでしょう。

つまり、神さまの救いの歴史は天地創造に始まり、復活によって完成したものとなります。そして復活による完成によって、歴史を貫く神のわざが一貫した秩序立ったものであることが証明されるのです。

1年間、丁寧に説きあかし下さいました。
年頭アシュラムには3年連続ご参加、早天祈祷会ご奉仕も。感謝申し上げます。
次号からは、金田佐久子師（埼玉・西川口教会）の みことばが始まります。